

県営担い手育成基盤整備事業

# 八女東部地区埋蔵文化財発掘調査概報3

福岡県八女市大字平田・黒土・本・吉田・大島所在遺跡の調査概報

八女市文化財調査報告書 第47集



1997

八女市教育委員会

# 序

平成6年度より始めました、県営担い手育成基盤整備事業八女東部地区に伴います埋蔵文化財発掘調査も3年目をむかえましたが、これまでの発掘調査によって貴重な遺跡や遺物が発見され、大きな成果を上げています。

なお、発掘調査にあたりましては、八女東部土地改良区、地元町内会、福岡県教育委員会、福岡県筑後川水系農地開発事務所をはじめ、関係各位に多大な御協力を得ておりますことにつきまして、深く感謝を申し上げます。

平成9年3月31日

八女市教育委員会

教育長 樋口 欽一

# 例 言

1. 本書は八女市が国、県の補助を受けて実施した県営担い手育成基盤整備事業八女東部地区を伴う発掘調査の調査概報である。
2. 発掘調査は八女市教育委員会が主体となり実施している。なお、出土遺物は岩戸山歴史資料館で保存している。
3. 遺構の実測は、国土調査法第Ⅱ座標系を基準にしており、写真は担当者が主となって行った。
4. 本書の執筆は各遺跡の担当者が行い編集は赤崎が行った。

# 本文目次

I. はじめに .....	1
II. 位置と環境 .....	3
III. 発掘調査の概要 .....	4
1. 餅田遺跡第2次調査 .....	4
2. 枕林遺跡第2次調査(2-4地点) .....	6
3. 西原遺跡第2次調査 .....	11
4. 福島地区糸里 .....	18
5. 八反田遺跡 .....	20
6. 柳ノ内遺跡 .....	22
7. 野ノ内遺跡第2次調査 .....	25
8. 石仏遺跡第2次調査 .....	26
9. 長峰地区糸里 .....	29
10. 道手遺跡 .....	31
表紙写真 西原遺跡第2次調査全景〔西側上空より〕	

# I. はじめに

八女東部地区の圃場整備事業は、平成6年度より5年計画で八女東部地区約210haを対象に開始された。圃場整備事業に伴って、事業地内に埋蔵文化財の存在が予想されたため、事前に試掘調査を実施して埋蔵文化財包蔵地の把握につとめている。

平成6年度には、八女市平田地区を中心に調査を行った。この結果、六反田遺跡より弥生時代の集落と、古墳時代の豪族居館が発見された。隣接する北ノ前遺跡では弥生時代後期の竪穴住居を始め、掘立柱建物が数多く発見された。野内遺跡では甕棺墓、石棺墓、木棺墓、土墳墓など、弥生時代の墓地も発見されている。

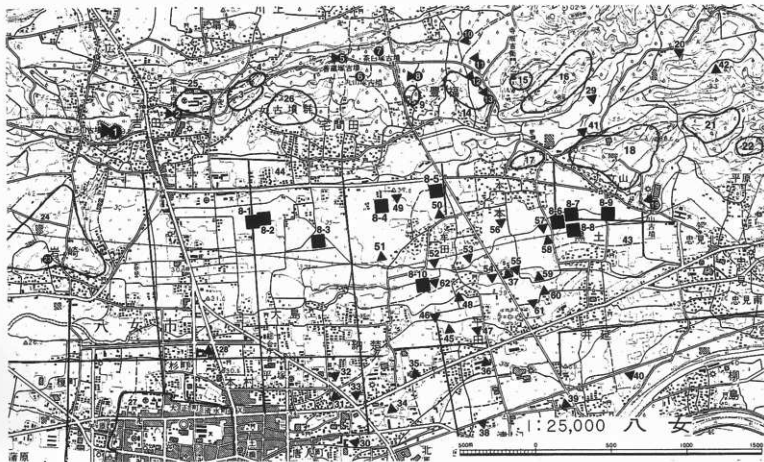
平成7年度は、八女東部地区圃場整備事業のほかに、事業関連の灌漑排水路、山ノ井川河川改修工事に伴う調査も併せて実施している。この結果、調査の地区は大字平田、大字黒土、大字本の3地区に及び13箇所の遺跡の調査を実施した。

平成8年度は、八女東部地区圃場整備事業のほかに、事業関連の灌漑排水路建設に伴う調査も併せて実施している。この結果、調査の地区は大字平田、大字黒土、大字本、大字吉田、大字大島の5地区に及び10箇所の遺跡の調査を実施した。

なお、この地区は条里制度の痕跡が各所に残っており、条里制度に関係する地名も多く残っている。このため、圃上整備事業施行全地域の測量調査も併せて実施している。発掘調査は、平成8年4月5日より開始したが、現地での調査は平成9年2月11日に終了した。(赤崎)

調査関係者は次のとおりである

八女市教育委員会	教 育 長	樋 口 欽 一 小 川 勲 (2月まで)
	生涯学習課長	杉 山 信 行
	生涯学習課長補佐 兼文化財係主任	下 川 文比古
	文化財係長	赤 崎 敏 男 (調査担当)
	同 係員	中 川 寿賀子 (調査担当)
	同 係員	大 塚 恵 治
	同 嘱託	山 田 朗 子 (調査担当)
八女東部土地改良区	理 事 長	野 上 登
	事務局長	江 崎 国 雄
	事務局員	倉 員 順 子



1. 岩戸山古墳 2. 桑場古墳 3. 辻の西遺跡 4. 宅間田古墳群 5. 善藏塚古墳 6. 丸山塚古墳 7. 茶臼塚古墳 8. 鶴見山古墳 9. 鶴見山南・大神宮古墳  
 10~14. 釘崎古墳群 15.16. 鹿子島山古墳群 17. 本古墳群 18. 立山山古墳群 19. 丸山古墳 20. 牛焼谷古墳群 21.22. 平原古墳群 23. 円墳 24. 岩崎遺跡  
 25. 福島高校遺跡 26. 宅間田遺跡 27. 福島城跡 28. 福島中学校校庭遺跡 29. 本向野遺跡 30. 鈍土羅石棺. 本町遺跡 31.33. 赤氏遺跡 32. 万上田遺跡  
 34. 野野遺跡 35. 高島遺跡 36. 後ノ江遺跡 37. 口ノ坪遺跡 38. 津ノ江遺跡 39. 祈禱院遺跡 40. 高野町遺跡 41. 立山山墳輪案跡 42. 中尾谷案跡群  
 43. 忠見地区条里 44. 長峰地区条里 45. 平田・六反田遺跡1地点 46. 平田・六反田遺跡2地点 47. 北ノ前遺跡 48. 野内遺跡 49. 餅田遺跡 50. 枕林遺跡  
 51. 丁ノ坪遺跡 52. 永尾遺跡 53. 千松遺跡 54. 尺取遺跡 55. 口ノ坪遺跡 56. 大門遺跡 57. 石仏遺跡 58. 大林遺跡 59. 十郎丸遺跡 60. 野ノ内遺跡  
 61. 春田遺跡 62. 西原遺跡 8-1. 道手遺跡 8-2. 長峰地区条里 8-3. 吉田地区条里 8-4. 餅田遺跡2地点 8-5. 枕林2地点. 3地点. 4地点 8-6. 石仏遺跡2次  
 8-7. 柳ノ内遺跡 8-8. 野ノ内遺跡2次 8-9. 八反田遺跡 8-10. 西原遺跡2次

第1図 八女東部地区遺跡分布図 (1/25,000)

## II. 位置と環境

平成8年度県営担い手育成基盤整備事業八女東部地区圃場整備事業の計画された地区は大字平田、大字本、大字黒土、大字宅間田、大字大島、大字納楚、大字吉田の7地区64区に及ぶ大きな面積である。八女市の南北を結ぶ県道82号久留米-立花線を中心に、東側を西側は国道3号線にいたる地区について今年度の事業が進められた。

この地区の北側には八女丘陵が東西に連なり、丘陵上には国指定史跡の八女古墳群（岩戸山古墳、乗場古墳、善蔵塚古墳、丸山塚古墳、茶臼塚古墳、丸山古墳）の他、鶴見山古墳、釘崎古墳群、辻の西遺跡など、4世紀から6世紀にかけての筑紫君やその一族の古墳が築かれている。

丘陵から眼下に望む平野部からは、平成6年度から平成7年度の発掘調査で縄文時代から歴史時代の遺跡が各所で発見されている。平成6年度の調査で、弥生時代の集落として六反田遺跡、北ノ前遺跡が、墓地として野内遺跡が、古墳時代の集落として野内遺跡が、六反田遺跡は豪族居館の発見があり注目された。平成7年度の調査では、縄文時代の竪穴土壙と落し穴が大林遺跡、尺取遺跡、野ノ内遺跡、春田遺跡、永尾遺跡、千松遺跡、石仏遺跡で発見され、特に尺取遺跡からは石組炉とともに、多量の押型文土器が出土している。弥生時代の集落としての発見はなかったが、西原遺跡から甕棺墓群が発見された。古墳時代の遺跡として口ノ坪遺跡、千松遺跡から4世紀から5世紀にかけての竪穴住居の発見があったが、大規模な集落とは考え難い。歴史時代の遺跡としては尺取遺跡、大門遺跡、枕林遺跡、丁ノ坪遺跡、石仏遺跡から土壙や溝が発見された。特に石仏遺跡から中世居館と思われる井戸や溝が発見され、青磁などの輸入陶磁器も出土している。また、この地区には条里の痕跡や条里地名などが良く残っており、長峰地区条里、福島地区条里、上妻地区条里、忠見地区条里として知られている。（赤崎）

### Ⅲ. 調査の概要

#### 1. 餅田遺跡第2次調査

- ①所在地 八女市大字本字餅田
- ②調査期間 平成8年4月5日～4月26日
- ③調査面積 3,000㎡
- ④調査の概要

八女東部地区は場整備事業に伴って調査を実施した。標高36cm前後で、周辺の水田よりわずかに高い。発掘調査の結果、調査区の北部と東部に集中して溝が8条発見された。SD01～SD03は東西方向に流れ、SD04～SD08は南北方向に流れる。SD01～05は比較的新しく、全て幅40～45cm、深さ10cm前後であった。SD06は幅170cm前後、深さ55cm前後で、土師器の甕、須恵器の坏蓋（生焼け）が出土し、7世紀中頃～後半の遺構。SD07は幅60～160cm、深さ8～35cm、土師器の皿が出土。時期は不明。SD08は北側で二つに分かれていて、幅45～90cm、深さ5～27cm。SD06～08は、再利用して使用されている。（山田）



第2図 餅田遺跡第2次調査位置図 (1/5,000)



第3図 餅田遺跡第2次調査 2地点全景〔南より〕



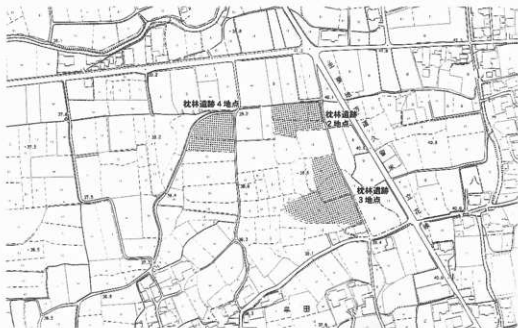
第4図 餅田遺跡第2次調査 2地点 溝 (SD01～SD08)〔北より〕

## 2. 枕林遺跡第2次調査 2地点

- ①所在地 八女市大字本字枕林  
②調査期間 平成8年4月24日～6月3日  
③調査面積 2,100㎡

### ④調査の概要

八女東部地区は場整備事業に伴って調査を実施した。調査区は県道82号久留米-立花線のすぐ西側に位置し、水田として利用されていた。標高は39m前後で、調査区の北東部が一段高くなっている。調査の結果、溝が4条、柵列1条、土壇2基、縄文時代早期の竪穴土壇4基などが発見された。SD01は片側が調査区外のため正確な幅が不明であるが、幅2.2m以上、深さ26cm以上。遺物は鉄製品が1点出土。SD02は幅45cm前後、深さ4～17cmで高くなった部分でだけ確認している。遺物は完形の石剣が1点出土。SD03は幅100～370cm、深さ12～50cmで、低い部分での残りはかなり悪い。SD04は幅30～65cm、深さ12～17cmで高くなった部分だけ確認している。SA01はほぼ円形のPitが弓なりに16基並ぶ。堀方はすり鉢状で規模は直径40cm前後。遺物は須恵器の皿が出土し、歴史時代の遺構である。SK01は円形で、規模は直径150cm、深さ60cm。堀方がやや袋状になっていること、埋土に炭化物が含まれていることより貯蔵穴と思われる。竪穴土壇SX01は円形で、直径3.2m、深さ50cm。SX02も円形で、直径3.4m、深さ110cm。SX03は楕円形で長径3.8m、深さ33cm。SX04は不整形形で深さ40cm前後。土層観測よりいずれも遺構外側から黒色土が流れ込み、中央は地山土である。遺物は出土しなかった。(山田)



第5図 枕林遺跡第2次調査2, 3, 4地点位置図 [1/5,000]



### 枕林遺跡3地点

- ①所在地 八女市大字本字枕林  
②調査期間 平成8年6月3日～8月26日  
③調査面積 2,530㎡

#### ④調査の概要

八女東部地区は場整備事業にともなって調査を実施した。枕林2地点のすぐ南に位置し、標高は39m前後で南西方向にやや傾斜している。発掘調査の結果、溝が7条、縄文時代早期の竪穴土壇(SX)が26基発見された。竪穴土壇は調査区全体にあり、南側に集中している。プランは円形、楕円形、不整形のものがある。規模は直径2m前後のもの、4～5m前後のものほとんどである。深さは浅いもので15cm、深いものは70cm前後である。SX10より弥生時代前期後半～末期の土器片が、SX11より土師器片が出土。(山田)



第6図 枕林遺跡第2次調査 2地点 溝(SD01, 02, 03)〔東より〕



第7図 枕林遺跡第2次調査 2地点 柵 (SA01) [南東より]



第8図 枕林遺跡第2次調査 2地点 溝 (SD03) 出土 石剣

#### 枕林遺跡4地点

- ①所在地 八女市大字本字枕林  
②調査期間 平成8年8月9日～平成8年9月13日  
③調査面積 875㎡

#### ④調査の概要

八女東部地区ほ場整備事業にともなって調査を実施。枕林遺跡3地点より300m西に位置する。遺跡周辺の標高は37m前後。発掘調査の結果、調査区の西側に南北に流れる溝が2条、縄文時代早期竪穴土壌が6基、弥生時代中期の土壌が1基発見された。SD01は幅1-1.7m、深さ53-71cmを測り、堀方は逆台形である。SD02は幅1.8-3.6m、深さ64-126cmを測る。遺物は弥生時代後期～終末期の甕、壺、高坏、碗、支脚、器台が出土した。弥生時代中期の土壌は長辺1m、短辺80cmの隅丸長方形で深さは12-19cmを測る。遺物は弥生時代中期の甕、壺、高坏。丹塗の甕、壺、高坏が出土した。(山田)



第9図 枕林遺跡第2次調査 3地点 竪穴土壌(SX)〔西より〕



第10図 枕林遺跡第2次調査 4地点〔西より〕



第11図 枕林遺跡第2次調査 4地点 土塊 (SK01)〔東より〕

### 3. 西原遺跡第2次調査

- ①所在地 八女市大字平田字西原  
②調査期間 平成8年4月30日～平成9年1月11日  
③調査面積 6,300㎡

#### ④調査の概要

本遺跡のある平田地区は八女市東部のやや北側に位置する。八女台地の低位段丘面にあつて、標高は36m前後である。墓地と集落を中心とする弥生時代～古墳時代にかけての遺跡である。主な遺構としては弥生時代中期の甕棺墓が74基（成人棺28基、小児棺46基）、古墳時代前半の方形周溝墓3基（最大のもので一辺12m、その他は一辺9m前後）、弥生時代中期の竪穴住居3軒（円形で径が7m～9m前後）、弥生時代終末（規模：縦3m、横6m前後）～古墳時代の竪穴住居（規模：一辺が5m前後でカマドを持つ）66軒、竪穴土壇・貯蔵穴・祭祀遺構などの土壇187基、溝21条、ピットなどが見つかった。主な出土遺物は、土器では日常使われていた弥生式土器の壺・甕・鉢・高杯など。日常以外のものとして土製勾玉・暗文の入った高杯・特殊な器台など。石器では石鏃・石包丁・砥石・石皿など。古墳時代のものとしては、土師器の杯・壺・甕・高杯などまた、ミニチュア土器の杯・埴・スプーンなどや鉄器も見つかつてい



第12図 西原遺跡第2次調査位置図 (1/5,000)

る。

すでに平成7年度に西原遺跡（1次調査）が本調査区の東側で行われており、弥生時代中期の甕棺墓が10基ほど検出されている。このことから今回見つかった甕棺墓はこの続きであり、しかも列埋葬であることがわかった。また、調査区北側で検出された方形周溝墓についても、関東・山陰系の特色を持つ土器が出土するなど、八女東部圃地区場整備事業地区内の代表的な遺跡となるだろう。（中川）



第13図 西原遺跡第2次調査 全景〔上空から〕

X=+24,162,000

X=+24,117,000

Y=-39,999,000

Y=-39,999,000

X=+24,162,000

X=+24,117,000



- SB 竖穴住居
- SK 土坑
- K 甕棺墓
- ID 石蓋土坑墓
- SD 溝

第14图 西原遺跡第2次調査 遺構配置図(1/400)



第15図 西原遺跡第2次調査 全景（上空より）



第16図 西原遺跡第2次調査 壘穴住居（SB08）〔南から〕





第17図 西原遺跡第2次調査 甕棺墓群〔北東より〕



第18図 西原遺跡第2次調査 K56〔南より〕



第19図 西原遺跡第2次調査 全景〔上空より〕



第20図 西原遺跡第2次調査  
SX05 2垂口縁壺出土状態  
〔西より〕



第21図 西原遺跡第2次調査 SX05 土器出土状況〔南から〕

#### 4. 福島地区条里

- ①所在地 八女市大字大島字定常  
②調査期間 平成8年5月24日～6月19日  
③調査面積 400㎡

#### ④調査の概要

八女東部地区は場製備事業地区の南側にあたる福島地区には、市街地の北側に条里の痕跡が残っており、現在でも坪間が道路や水路として利用されている。また、坪内の畦畔も旧状をとどめており、条里関係の地名として小字名に五反田、六反田、八反田、大坪、巻町田、八反畑などが残っている。調査地区は山ノ井川の北側で、条里の坪が最も残っている地点を選定した。東側で標高は32.7m前後、西側で標高は32.2m前後を測る。

調査は条里の坪内のほぼ中央部に、また、畦畔、坪間の道路を横断するよう南北と東西に幅1mのトレンチを4本設定した。

発掘調査の結果、遺物は3トレンチから須恵器の小片が出土した以外はまったく出土せず、耕作土、床土の下層は全域にわたって青灰色の粘土層が検出された。また、畦畔、坪間道路の断面も現耕作土の床土上に作られているところから、この地域一帯が削平を受けた後、再び旧場所にて畦畔や坪間の道路を作ったものと考えられる。(赤崎)



第22図 福島地区条里(定常)調査位置図(1/5,000)



第23図 福島地区条里(定常)1トレンチ〔西より〕



第24図 福島地区条里(定常)3トレンチ〔南より〕

## 5. 八反田遺跡

- ①所在地 八女市大字本字八反田  
②調査期間 平成8年9月5日～平成8年9月19日  
③調査面積 1,500㎡

### ④調査の概要

八女東部第3期灌漑排水路事業に伴って調査を実施した。標高は41m前後。発掘調査の結果、縄文時代早期の竪穴土壇が5基、性格の不明な楕円、または不整形の土壇が十数基発見されている。遺構からの遺物は出土しなかったが、周辺より陶器の大皿片と、青磁片が表採された。(山田)



第25図 八反田遺跡・柳ノ内遺跡・野ノ内遺跡第2次調査・石仏遺跡第2次調査  
調査位置図 (1/5,000)

## 6. 柳ノ内遺跡

- ①所在地 八女市大字本字柳ノ内  
②調査期間 平成8年10月1日～平成8年12月18日  
③調査面積 3,400㎡

### ④調査の概要

八女東部地区は場整備事業にともなって調査を実施した。調査区は、前年度に調査を行った石仏遺跡から東に50mの所に位置する。標高は40.5m前後で、水田として利用されていた。発掘調査の結果、縄文時代早期の竪穴土壌が30基（内1基は溜め池状遺構）、東西方向に流れる溝が3条（SD01、02、03）、北東—南西方向に流れる溝が1条（SD04）、弥生時代後期の土壌が4基、弥生時代の円形竪穴住居が2軒、鎌倉時代以降の井戸が1基が発見された。

### ○縄文時代

#### 竪穴土壌

竪穴土壌は調査区全域に広がっており、小さいもので長径24m、短径14m以上、深さ35cmの楕円形。大きいもので長径50m、短径40m、深さ71cmの楕円形。土層を観察したところ、遺



第28図 柳ノ内遺跡 全景〔西側上空より〕

構の外側から黒色土が流れ込み、中央は黄色粘土が堆積している。中央に黒色土が真上に立ち上がっているものもある。

### ○弥生時代

#### 土壌

SK01は長辺125cm、短辺65cm、深さ29-36cmの隅丸長方形で、低部が段落ちになっている。遺物は大型壺形土器、甕形土器が出土。

SK02は長径130cm、短径110cm、深さ98cmのほぼ円形で、井戸と思われる。

SK04は長径130cm、短径67cm、深さ25-35cmの楕円形で、SK01同様低部が段落ちになっている。遺物は弥生時代前期後半～末期の甕形土器が出土。

SK10は長径120cm、短径90cm以上、深さ38cmの不整形で、遺物は壺形土器、甕形土器、こしきなどが出土。

#### 円形竪穴住居

SB01、02ともに遺構の大部分が調査区外のため、正確な規模はつかめないが、SB01は直径5.7m以上、深さ11-29cm。SB02は直径4.1m以上、深さ8-14cm。遺物はSB01より弥生時代前期末



第29図 柳ノ内遺跡 全景〔上空より〕

～後半の土器片、黒曜石が出土。

○歴史時代

井戸状遺構

SB02を切っており、直径1.55 mの円形で、深さ1.02 m。低部から30 cm程の河原石が出土。

溝状遺構

SD01は幅1.3～2.2 m、深さ20～33 cmで、遺構は途中で消える。遺物は土師器の小皿、青磁片が出土し、歴史時代の遺構と思われる。

SD02は幅0.9～3.0 m、深さ5～29 cmで、溜め池状遺構へ続く。遺物は土鍾、黒曜石土器が出土し、歴史時代の遺構である。(山田)



第30図 柳ノ内遺跡 土壙 (SK01)



## 7. 野ノ内遺跡第2次調査

- ①所在地 八女市大字黒土字野ノ内  
②調査期間 平成8年10月11日～10月28日  
③調査面積 700㎡

### ④調査の概要

八女東部地区ほ場整備事業に伴って調査を実施した。調査区は柳ノ内遺跡の南続きで、水路によって区切られている。標高は40.5m前後で、水田として利用されていた。調査の結果、縄文時代早期の堅穴土壙3基、長楕円形の土壙7基が検出された。調査区の中央は南に向かって広がるくぼ地になっている。遺物は出土せず、幅10mの調査のため性格は不明である。来年度の調査に期待したい。(山田)



第31図 野ノ内遺跡 第2次調査全景〔西より〕

## 8. 石仏遺跡第2次調査

- ①所在地 八女市大字本字石仏
- ②調査期間 平成8年10月21日～11月28日
- ③調査面積 350㎡
- ④調査の概要

八女東部地区は場整備事業に伴って調査を実施した。調査区は黒土集落の北側で、平成7年度に調査を行った石仏遺跡のすぐ東側に位置する。標高は40m前後。発掘調査の結果、東西方向に流れる溝状遺構1条、弥生時代前期後半～末期の土壌1基、鎌倉時代の井戸1基、同時代の土壇4基（SK01、06、07、08）、約400のPitなどが発見され、遺構からは焼粘土が多量に出土した。また、調査区の北側は整地層であった。弥生時代の土壌からは、刻目突帯文が4段ついた甕形土器、壺形土器が出土した。鎌倉時代の土壇SK07は長径4.7m以上、短径1.5m、深さ27～45cmを測り、土師器の糸切小皿（低部に穿孔有）、鉢、青磁碗、白磁碗が出土。SK08は長径5.5m、短径2.3m、深さ50～76cmを測り、土師器の糸切小皿、瓦質鉢、甕、青磁碗、サヌカイト原石が出土。溝状遺構SD01からは完形の石臼、土師器の鉢、皿、土鍾、羽釜、糸切小皿、青磁片が出土。SD02からは火舎、摺鉢、土師器、瓦質鉢が出土し、時期は鎌倉時代の遺構である。井戸状遺構は、平面プランは円形で、直径2.8m、深さ155cmを測る。遺物は糸きり小皿、土師器の羽釜、土師器の小皿、青磁片などが出土。（山田）



第32図 石仏遺跡 第2次調査全景〔西より〕



第33図 石仏遺跡 第2次調査全景〔東より〕



第34図 石仏遺跡 第2次調査 土坑 (SK08)〔北より〕



第35図 石仏遺跡 第2次調査 井戸 (SE01)



第36図 石仏遺跡 第2次調査 土壇 (SK01)

#### 9. 長峰地区条里

- ①所在地 八女市大字吉田字川黒・字前原・字馬草  
②調査期間 平成8年12月2日～12月17日  
③調査面積 600㎡

#### ④調査の概要

八女東部地区は場製備事業地区の西側にあたる長峰地区には、ほぼ全域にわたって条里の痕跡が残っており、現在でも坪間が道路や水路として利用されている。また、坪内の畦畔も旧状をとどめており、特に大字吉田の字川黒・字前原・字馬草については一つの坪が小字として用いられている。

調査地区は長峰小学校の南東にあり、北側で標高は32.7m前後、南側で標高は32.2m前後と南側がわずかに低い。

調査地は長峰地区で、条里の坪が最も残っている地点を選定した。調査は条里の坪内のほぼ中央部に、また、畦畔を横断するよう南北と東西に幅1mのトレンチを設定した。

発掘調査の結果、遺物はまったく出土せず、耕作土、床土の下層は全域にわたって青灰色の粘土層が検出された。また、畦畔の断面も現耕作土の床土上に作られているところから、この地域一帯が削平を受けた後、旧場所に畦畔を作ったものと考えられる。(赤崎)



第37図 長峰地区条里(川黒・前原・馬草)発掘前風景〔北より〕



第38図 長峰地区桑里〔南より〕



第39図 長峰地区桑里〔北より〕

## 10. 道手遺跡

- ①所在地 八女市大字吉田字道手  
②調査期間 平成9年1月9日～2月14日  
③調査面積 2,900㎡

### ④調査の概要

八女東部地区は場整備事業に伴って調査を実施した。調査区は長峰小学校の南東方向にあり、標高は32m前後で水田として利用されていた。発掘調査の結果、縄文時代早期の竪穴土壇約30基、落し穴土壇5基、縄文時代晩期の土壇1基(SK13)、古墳時代前期の土壇5基(SK05.06.08.09)、溝状遺構が1条、掘立柱建物5棟、竪穴住居が1軒発見された。溝状遺構からの出土遺物は、高坏、甕形土器、二重口縁壺形土器。土製品の手ずくね高坏、脚つきの埴。弥生時代中期、後期の甕形土器も混じっていた。土壇からの出土遺物は、SK05.06.08.09より高坏、甕形土器、壺形土器、椀形土器。SK13より条痕文のほどこされた縄文時代晩期の浅鉢形土器、深鉢形土器が出土。

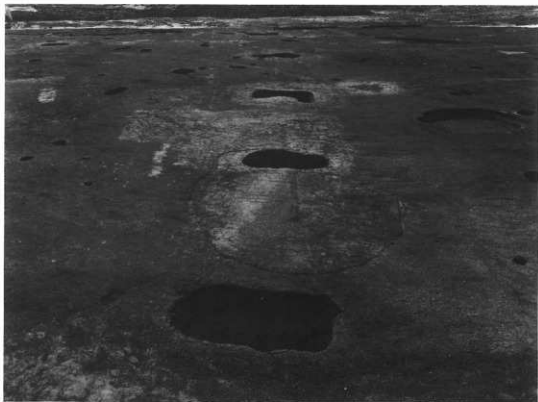
落し穴土壇は5基が一列にやや弓なりで南北に並んでいる。全ての平面プランは長方形で、各々底面より3本の逆木の柱穴痕と、逆木を固定する石が確認されている。遺構からの遺物はなかった。(山田)



第40図 長峰地区条里(川黒・前原・馬草)調査位置図 [1/5,000]

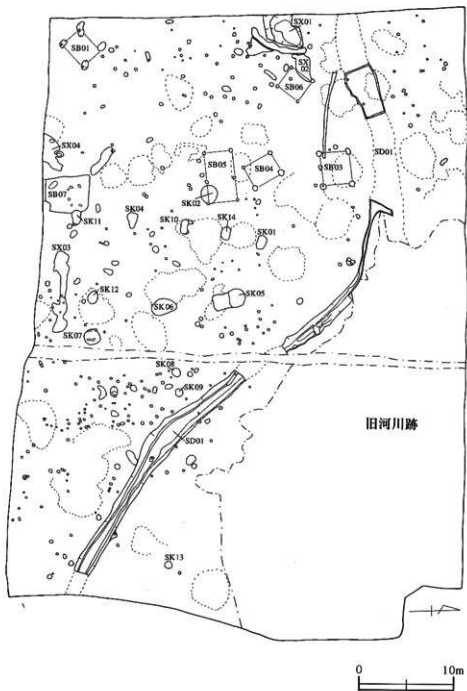


第41図 道手遺跡 全景〔東側上空より〕

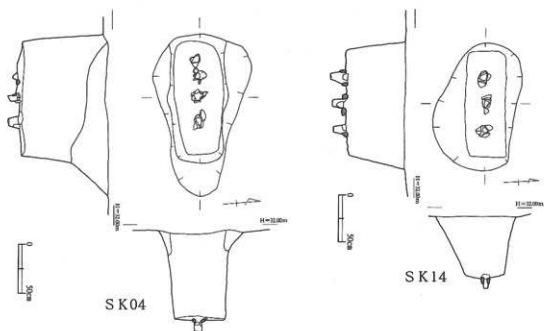


第42図 道手遺跡 落とし穴 (SK01, 14, 10, 04, 11)〔北より〕

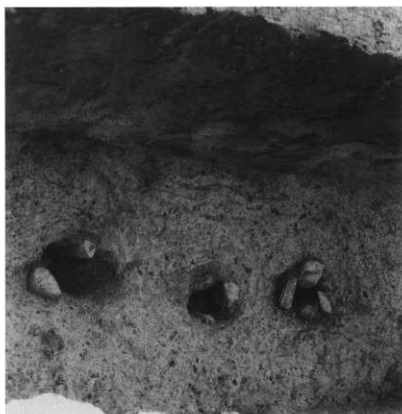




第43図 道手遺跡 遺構配置図 [1/400]



第44図 道手遺跡 落とし穴 実測図 (1/40)



第45図 道手遺跡 落とし穴 (SK10)



1. SK-01 北より



2. SK-04 北より



3. SK-10 北より



4. SK-11 北より



5. SK-14 北より

第46図 道手遺跡 落とし穴 (SK01,04,10,11,14)



第47図 道手遺跡 溝 (SD01) (SK08・09) [西より]



第47図 道手遺跡 掘立柱建物 (SB03) [東より]

○落し穴土壌

	長辺 (cm)	短辺 (cm)	深さ (cm)	柱 穴 の 深 さ (cm)			
				P 1	P 2	P 3	P 4
SK-01	152	80	68	16	15	14	
04	165	60~100	92	12	5	9	12
10	143	70	67	10	13	20	
11	150	90	67	10	11	13	
14	155	85	66	18	16	14	

○建物遺構

	間 数	長軸長(m)	短軸長(m)	主軸方向	柱 穴 (cm)		
					長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
SB-01	1×1	3.2	3.1	北東-南西	92~100	60~68	24~37
03	1×1	3.5	3.1	東-西	56~64		29~38
04	1×1	3.3	2.4	北西-南東	36~60		32
05	1×2	5.3	3.0	東西	32~40		35~49
06	1×1	2.8	2.7	北西-南東	36~48		39
07	竪 穴	4.7	3.7	北-南			5~13

# 報告書抄録

ふりがな	やめとうぶらくまいぞうぶんかざいはつかつちょうさかいほう							
書名	八女東部地区埋蔵文化財発掘調査概報 3							
副書名	福岡県八女市大字平田・本・黒土・大島・吉田所在遺跡の調査概報							
巻次	3							
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 47 集							
編著者名	赤崎敏男、中川寿賀子、山田朗子							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	〒834 福岡県八女市大字本町647 TEL.0943-23-1111							
発行年月日	西暦 1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
餅田遺跡2次 枕林遺跡2次 西原遺跡2次 福島地区糸里 八反田遺跡 柳ノ内遺跡 野ノ内遺跡2次 石仏遺跡2次 長峰地区糸里 道手遺跡	福岡県 八女市大字本 大字本 大字平田 大字大島 大字本 大字本 大字黒土 大字本 大字吉田 大字吉田			33° 13' 15" 33° 13' 20" 33° 13' 00" 33° 13' 05" 33° 13' 15" 33° 13' 10" 33° 13' 10" 33° 13' 10" 33° 13' 15" 33° 13' 15"	130° 34' 25" 130° 34' 40" 130° 34' 30" 130° 34' 10" 130° 35' 00" 130° 35' 10" 130° 35' 10" 130° 35' 10" 130° 33' 05" 130° 33' 10"	960405~960426 960424~960913 960430~970111 960905~960919 961001~961218 961011~961028 961021~961128 970109~970214	3,000㎡ 5,500㎡ 6,300㎡ 400㎡ 1,500㎡ 3,400㎡ 700㎡ 350㎡ 600㎡ 2,900㎡	八女東部地 区ほ場整備 事業 八女東部第 3期灌漑排 水路事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物		特記事項		
餅田遺跡2次	集落跡	古墳時代	溝	土師器、須恵器				
枕林遺跡2次	集落跡	縄文時代 弥生時代	溝、竪穴土壇、棚列	土師器、須恵器、 弥生式土器				
西原遺跡2次	農地・集落跡	弥生時代 古墳時代	甕棺墓、竪穴住居、 方形周溝墓	甕棺、弥生式土器、 土製勾玉				
福島地区糸里	糸里	奈良時代	なし	なし				
八反田遺跡		縄文時代	土壇	なし				
柳ノ内遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代	溝、竪穴住居、竪穴土壇	土師器、弥生式土器				
野ノ内遺跡2次		縄文時代	土壇	なし				
石仏遺跡2次	集落跡	弥生時代 鎌倉時代	溝、井戸、土壇	弥生式土器、土師器、 青磁、白磁				
長峰地区糸里	糸里	奈良時代	なし	なし				
道手遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代	竪穴土壇、溝、 竪立柱建物	土師器				

八女東部地区  
八女市文化財調査報告書

第 47 集

発行 八女市教育委員会  
八女市大字本町647  
印刷 橋爪印刷  
八女市大字吉田1899-1